

# Performing Arts Meeting in Yokohama 2016

国際舞台芸術ミーティング in 横浜 2016

開催報告書

アジアで最も歴史ある舞台芸術専門の  
国際的なプラットフォームです。



Photo: Nattapol Meechart

## 開催概要

主催	国際舞台芸術ミーティング in 横浜 2016 実行委員会 (国際交流基金アジアセンター、公益財団法人神奈川県芸術文化財団、公益財団法人横浜市芸術文化振興財団、PARC - 国際舞台芸術交流センター)
事務局	国際舞台芸術ミーティング in 横浜 事務局 (PARC - 国際舞台芸術交流センター内)
会期	2016年2月6日[土] ~ 2月14日[日]
会場	KAAT 神奈川芸術劇場、横浜赤レンガ倉庫1号館、BankART Studio NYK、YCC ヨコハマ創造都市センター、神奈川県民ホール 小ホール、AMAZON CLUB Port Terrace Cafe (ポートテラスカフェ) (JICA 横浜 3F) 他
協力	BankART1929、公益財団法人横浜観光コンベンション・ビューロー、特定非営利活動法人YCC
後援	外務省、文化庁、神奈川県、横浜市
提携事業	横浜ダンスコレクション2016、アジア・ミーティング・フェスティバル2016 東京公演、ダンスアーカイブプロジェクト2016、国際交流基金 障害×パフォーマンスアーツ特集2016、アジア舞台芸術アーティスト・イン・レジデンス

今回のTPAMでも昨年に引き続きアジアにフォーカスしたプログラムを数多く実施しました。同時代的な舞台芸術について、日本ではこれまであまり紹介されてこなかった地域から積極的に紹介する各プログラムでは、アーティストやプレゼンターに多数ご来場いただき、上演はもとより会議や「TPAMエクスチェンジ」などの交流プログラムを通して活発な情報・意見交換がなされました。

加えて、アジアにおけるコプロダクション=共同製作による2つの作品を上演、また音楽プログラムもスタートしました。大きく動いている同時代の社会において、私たちはどのように世界を捉え、舞台芸術のプロフェッショナルはどのように応答していくのでしょうか。

TPAMは舞台芸術に取り組むプロフェッショナルのための国際的プラットフォームです。引き続き同時代の舞台芸術の創造、支援、発展、発信、交流、批評、研究への関心と熱意を共有するみなさんに積極的にご参加いただけますよう事務局一同尽力してまいります。最後になりましたがご参加いただきました皆様に厚く御礼申し上げます。

国際舞台芸術ミーティング in 横浜 事務局



今年度のTPAMは、いつも増して交流が盛んとなり、特に若い世代の制作者が、カフェのそこかしこで海外の制作者と商談を行っている風景は頼もしい限りであった。

一方で、参加者の固定化もみられ、たとえば東京の小劇場界でもTPAMの知名度は、まだまだ大きな偏りがあるように思える。地方の公共ホールにおいても同様だろう。

先端的な事例紹介と共に、地道なノウハウ提供や、原点に戻ったマッチングなど、さらに広範囲の集客を目指す戦略も必要かもしれない。

少しずつ培われてきたブランドイメージを損なわずに、新しい参入者をどう呼び込んでいくかが今後の課題となるだろうし、アドバイザーとしても、その点に協力していければと考えている。



平田オリザ  
劇作家・演出家  
TPAMアドバイザー

Photo: Taeki

TPAMは近年ますます、多様で混交的になってきています。単に国際的というだけでなく、今年の、つまりTPAM2016を体験してそれを強く実感しました。音楽のプログラムもいまやその大切な一角を担うようになっているTPAMはもはや「舞台芸術の」プラットフォーム、と限定的に言うことがほとんどできない状態ですが、とこれはもちろんいい意味で言ってるのですが、それもこの多様さ・混交的であること、の一例です。

TPAM2016は、実に賑やかでした。これはアドバイザーとしてというより、一人の体験者としての実感です。そこにはアジアを中心にさまざまな地域から来たTPAM参加者たちの夜の集いの場として大いに機能したAMAZON CLUBで過ごしたことも大いに含まれています。願わくは、今後のTPAMではこの賑わいの中にこれまで以上に多くの国内の舞台芸術・音楽に携わる人々が交じりあい、多様さのなかに巻き込まれていきますように。



岡田利規  
演劇作家・小説家・チェルフィッチュ主宰  
TPAMアドバイザー

Photo: Kikiko Usuyama

## 目次

- P.2 開催概要、TPAM 総括
- P.3 TPAMアドバイザー コメント (平田オリザ、岡田利規)
- P.4 プログラム一覧
- P.6 統計
- P.8 TPAMコプロダクション
- P.9 TPAMコンテンポラリー・クラシックス
- P.10 TPAM ディレクション
- P.13 TPAM エクスチェンジ

- P.16 ミーティング・プログラム
- P.21 TPAMショーケース
- P.22 提携事業、参加方法
- P.23 主な掲載媒体一覧



TPAM2016主催プログラム一覧	会場
ビチュ・クランチェン 『Dancing with Death』	KAAT 神奈川芸術劇場 ホール
ホー・ルイ・アン 『Solar: A Meltdown』	KAAT 神奈川芸術劇場 中スタジオ
鈴木昭男、堀尾寛太、ピン・イドリス 『Music Opening Night』	BankART Studio NYK 3F 3B & 3C gallery
マーク・テ 『Baling』	KAAT 神奈川芸術劇場 大スタジオ
ジ・オブザバトリー 『Continuum』	神奈川県民ホール 小ホール
ダンスアーカイブボックス @TPAM2016 『ユーザーとアーキビストのパフォーマンス+ダイアログ』ナフテージ・ジョハール×鈴木ユキオ、チェイ・チャンクヤ×白井剛	横浜赤レンガ倉庫1号館 2階 スペース
ダニエル・コック/ディスコダニー & ルーク・ジョージ 『Bunny』	BankART Studio NYK 3F 3C gallery
ユン・ハンソル×グリーンピグ 『語りの方式、歌いの方式—デモバージョン』	KAAT 神奈川芸術劇場 中スタジオ
ドキュメント 『となり街の知らない踊り子』	YCC ヨコハマ創造都市センター 3F
チェルフィッチュ 『あなたが彼女にしてあげられることは何もない』	Port Terrace Café (ポートテラスカフェ) (JICA 横浜 3F)
タラ・トランジトリー aka ワン・マン・ネイション 『//genderlolnoise\\』	AMAZON CLUB
ダンスアーカイブボックス @TPAM2016 『ユーザーとアーキビストのパフォーマンス+ダイアログ』ヴェヌーリ・ベレラ×手塚夏子、花柳大日翠×伊藤千枝	横浜赤レンガ倉庫1号館 2階 スペース
キム・ミンギ×キム・ミンジョン×ムーブメント・ダンダン 『2016 工場のともしび—劇場デモ』	KAAT 神奈川芸術劇場 大スタジオ
SPAC – 静岡県舞台芸術センター 『メフィストと呼ばれた男』	KAAT 神奈川芸術劇場 ホール
[展示] ダンスアーカイブボックス @TPAM2016 『ダンスアーカイブボックスプロジェクトの展示』	横浜赤レンガ倉庫1号館 2階 スペース
[映像展示] アジアン・アーティスト・インタビュー	YCC ヨコハマ創造都市センター 1F
[展示] チョイ・カファイ 『SoftMachine: Expedition』	BankART Studio NYK 3F 3A gallery
TPAM ディレクション ディレクターズトーク	BankART Studio NYK 2F
音楽プログラム キックオフ・トーク	BankART Studio NYK 2F
《連続セッション：アジアにおけるコプロダクション》 セッションI：韓国からの視点	BankART Studio NYK 2F
《連続セッション：アジアにおけるコプロダクション》 セッションII：日本からの視点	BankART Studio NYK 2F
《連続セッション：アジアにおけるコプロダクション》 セッションIII：プロデューサーからの視点	BankART Studio NYK 2F
《連続セッション：アジアにおけるコプロダクション》 セッションIV：アーティストからの視点	BankART Studio NYK 2F
《特別鼎談》 「新しい広場」としての劇場	BankART Studio NYK 2F
《アジア舞台芸術アーティスト・イン・レジデンス》 アーティスト・プレゼンテーションI：タラ・トランジトリー	BankART Studio NYK 2F
《アジア舞台芸術アーティスト・イン・レジデンス》 アーティスト・プレゼンテーションII：チョン・ウニョン	BankART Studio NYK 2F
《アジア舞台芸術アーティスト・イン・レジデンス》 アーティスト・プレゼンテーションIII：エコ・スプリヤント	BankART Studio NYK 2F
《アジア舞台芸術アーティスト・イン・レジデンス》 アーティスト・プレゼンテーションIV：エヴァン・ウェッパー&エイミー・ヘンダーソン	BankART Studio NYK 2F
鴻英良による挑発と洗脳のための猿の演劇論「内破への視座」	BankART Studio NYK 2F
ダンスアーカイブボックス @TPAM2016 『ダンスのアーカイブと老いを巡るシンポジウム』	BankART Studio NYK 2F
『メフィストと呼ばれた男』アフタートーク	KAAT 神奈川芸術劇場 ホール
TPAM エクスチェンジ	BankART Studio NYK 2F
オープニング・レセプション	YCC ヨコハマ創造都市センター 1F
レイトナイト・ミーティング・ポイント	AMAZON CLUB
クロージング・パーティー	BankART Studio NYK 2F



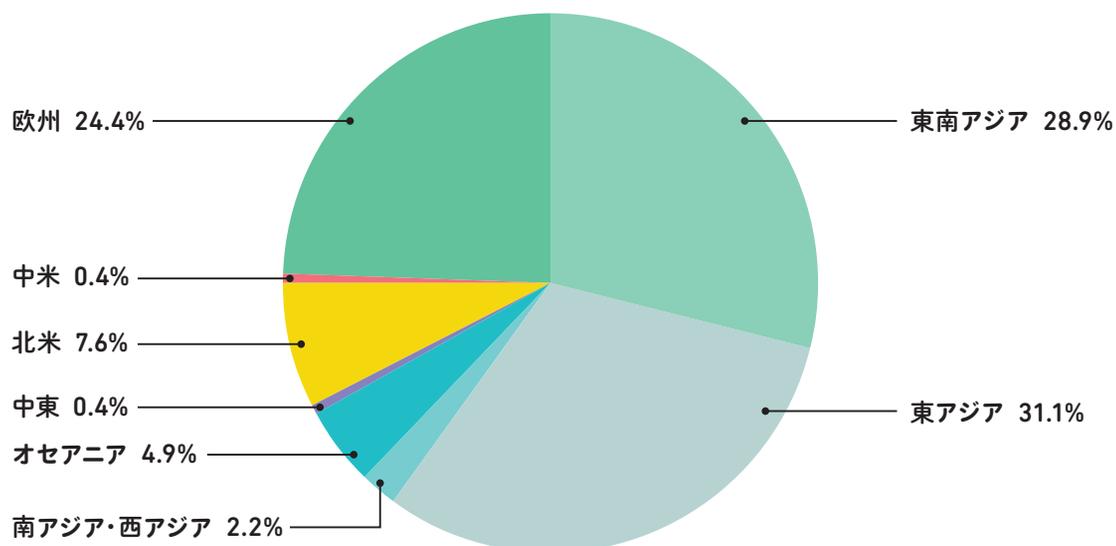
## 参加者数／プログラム数／紙媒体発行数

参加者数	TPAM 参加登録者 (プロフェッショナル)	716 人
	主催プログラム オーディエンス入場者数	585 人
	TPAM ショーケース来場者累計	8,772 人
	参加国	40 カ国 ※参加登録者とアーティスト含む
	海外からの参加登録者	292 人 ※参加登録者とアーティスト含む
	TPAM エクスチェンジ スピード・ネットワーキング ホスト	31 人
	TPAM エクスチェンジ グループ・ミーティング 参加テーマ	74 テーマ
	TPAM エクスチェンジ グループ・ミーティング 海外からの参加団体	27 団体
	プログラム数	主催プログラム演目数
ミーティング・プログラム数		14 セッション
TPAM ショーケース		36 団体
TPAM エクスチェンジ スピード・ネットワーキング ミーティング		341 コマ
TPAM エクスチェンジ グループ・ミーティング ミーティング		74 コマ
紙媒体発行数		プログラム
	チラシ	30,000 部
	ポスター	168 部



オープニング・レセプションの様子

## 海外からの参加者数 (地域別)



## アジアからの参加者数 (地域別)

アジア地域別	国別	数
東南アジア	ブルネイ	1
	カンボジア	6
	インドネシア	8
	ラオス	1
	マレーシア	20
	ミャンマー	2
	フィリピン	5
	シンガポール	30
	タイ	24
	ベトナム	3
	小計	100
東アジア	中国	20
	香港	14
	韓国	55
	台湾	11
小計	100	
南アジア	インド	4
	スリランカ	1
小計	5	
西アジア	イスラエル	1
小計	1	
オセアニア	オーストラリア	12
小計	12	
合計		218

## TPAM コプロダクション

アジアにおけるコプロダクション（共同製作）スキームの模索と推進を目的に、昨年度より開始したプログラム。参考事例の紹介やインタビュー、課題共有のミーティングといった昨年度のコンテンツからさらに展開し、今年度はTPAMをその主体に含む共同製作を実現した。TPAMがコプロダクション・パートナーとして参画したこと

で作品／アーティストの国際的プレゼンスが高まるとともに、舞台装置や字幕システムなど、ツアーに耐えるプロダクションへと昇華した。コプロダクション・パートナーとして参画を希望する声も多く、今後「TPAMディレクション」上演作品にも共同製作が含まれていく見込みである。

### ピチェ・クランチェン(バンコク) 『Dancing with Death』

Photo: Hideto Maezawa



2月7日[日]～2月8日[月]  
KAAT 神奈川芸術劇場 ホール

コーディネーター：中村茜  
技術監督：堀内真人(KAAT 神奈川芸術劇場)  
美術協力：C-COM舞台装置、有限会社拓人  
製作：ピチェ・クランチェン ダンスカンパニー、エスプラネード  
シアターズ・オン・ザ・ベイ(シンガポール)／委嘱：エスプラネード  
シアターズ・オン・ザ・ベイ(dan:s series 2016、シンガポール)／共同製作：国際舞台芸術ミーティング in 横浜 2016 実行委員会、アーツ・センター・メルボルン、アデレード・フェスティバルセンター - オージーアジア・フェスティバル/テクニカル・コンサルタント：KAAT 神奈川芸術劇場



Photo: Suras Rungsiatip

TPAMはアートに関するアイデアや価値観を探求し交換する、学習のためのものである。さまざまな考え方、さまざまな芸術様式を共有する機会が提供され、アートの現場で働く新旧の世代が出会い、互いから学ぶことができる。観客は新しい芸術作品を体験し、自分自身の考え方について思いをめぐらすことができる。

TPAMは問いを問う場を提供するが、答えがあるとは限らない。TPAMは過去でなく未来に向かってのだから、答えは重要ではなく、問いを問うことが重要なのである。

新作『Dancing with Death』をTPAM2016で初演したアーティストとして、私と私のチームは素晴らしい経験を得た。サポートチーム(技術・制作の両面で)は、勤勉なプロフェッショナルで、優秀かつ常に協力的だった。共同製作団体の1つであったTPAMからは特別な技術協力を得た。技術チームは、舞台装置(この作品の中心的要素)をどう作るか、技術的にそれをどう実現するか話し合うため、私の地元に来てくれた。しかも、技術監督はその舞台装置のスケッチを描き、最良の状態ですべてを作り上げることを可能にしてくれた。技術チームはまた、作品に最も適した方法で劇場を活用するための準備と計画をしてくれた。ピチェ・クランチェン・ダンスカンパニーは、『Dancing with Death』の完成に導いてくれたTPAMの技術的・制作的サポートにとっても感謝している。

ピチェ・クランチェン(振付家・ダンサー)

### マーク・テ(クアラルンプール) 『Baling』

Photo: Kazuomi Furuya



2月9日[火]～2月10日[水]  
KAAT 神奈川芸術劇場 大スタジオ

製作：ファイブ・アーツ・センター(クアラルンプール)／委嘱：アジア・アーツ・シアター(光州)／共同製作：アジア・アーツ・シアター、国際舞台芸術ミーティング in 横浜 2016 実行委員会、KYOTO EXPERIMENT(京都)  
助成：ロイヤル・アーツ・ガラ(マレーシア)、サイム・ダービー財団(クアラルンプール)



Photo: Andy Darrel Gomes



Photo: Hideto Maezawa

2014年と2015年に、ファイブ・アーツ・センターは、『Baling』の共同製作の可能性についてTPAMと話していた。私たちには、このタイプのプロジェクトの経験がなく、国際的パートナーとの共同製作というものが何を意味するのか、はっきり分かってはいなかった。

話し合いを通して、丸岡ひろみさんをはじめとするTPAMのチームが難題を理解しそれに取り組むときの注意深さやオープンさに気づいた。経験がなかったので、私たち自身は難題があるということにさえ気づいていなかった! 『Baling』をめぐる技術的な問題について考えながらも、私たちは、観客がこの作品にどう反応するか見当がつかないということが実は最大の問題であるように感じていた。私たちの作品はとてもローカルな文脈を持っており、『Baling』が日本の観客にどのように伝わるのか、あるいはそもそも伝わるのかどうか、確信がなかった。いずれにせよ、TPAMの直感とプログラミングの姿勢を信頼し、そうした初期の不安を乗り越えるべきだということは分かった。TPAMにとって『Baling』は、より多様なタイプのパフォーマンスをプログラムし、マレーシアのような国で問われている問いに光を当てる契機であっただろう。私たちそれぞれのコミュニティにおいて、現代社会の精神に影響を与えている諸問題に、協力して取り組むにあたってのこの好奇心とオープンさこそ、TPAMが育もうと努力してきたことであり、いろいろな側面でそれは大変成功している。

マーク・テ(演出家)、ジューン・タン(プロデューサー)

## アジアン・アーティスト・インタビュー

Photo: Hideto Maezawa



2月6日[土]～2月14日[日]  
YCC ヨコハマ創造都市センター 1F

昨年度に引き続き、東南アジア各地で活動する次代を担うアーティストの背景や状況を聞き取り、協働の下地をつくるべく実施。「Borak Arts Series 2015」(クアラルンプール)に展示招聘を受けるなど国際的な認知度も高く、共同製作に向けて多様な観点・問題の共有に機能している。会期中は、今年度インタビューを実施したマニラならびにプノンペン映像に加え、昨年度収録したインタビューも含めた12本の映像を展示した。一般社団法人NOOKの手による、図書館の閲覧室をイメージした展示レイアウトも好評を得た。各映像はTPAMのウェブサイトからも視聴が可能。

## TPAM コンテンポラリー・クラシックス

成熟した経験を持つ作家が歴史や社会に対してダイナミックかつ新たな挑戦として取り組む、いわば「同時代的古典」と呼ぶような作品を紹介するプログラム。

『メフィストと呼ばれた男』は、日本を代表する演出家の一人である宮城聡氏が、同時代の日本の舞台芸術を取り巻く環境と、ひいては日本社会の危機を、公立劇場の芸術監督という自らの立場を自省的に問い大きな話題を呼んだ作品。加えて、韓国の70年代を象徴するミュージシャンで演出家のキム・ミンギ氏の歌劇を再創

作し、折しも検閲問題が浮上している韓国の舞台芸術シーンからそれをかかむ同時代韓国社会を問い、ソウルの若い世代を中心に大きな反響を生んだ『2016 工場ともしび—劇場デモ』を紹介した。TPAMでは、2011年から数年にわたりTPAMディレクションのディレクターに若手の制作者を招くなど、若手・中堅の舞台芸術関係者のネットワーク作りに注力する一方で、世代を超えたネットワーク作りが課題となっており、本プログラムはその課題に取り組むことも念頭に置いたものである。

### SPAC – 静岡県舞台芸術センター(静岡) 『メフィストと呼ばれた男』

Photo: Ryota Awarashi



TPAMで『メフィストと呼ばれた男』を上演できたことは非常に有意義だったと感じている。

世界中で理想の旗が降ろされ、あからさまな排外主義が台頭するこんにち、はたして公立劇場には何ができるのかが厳しく問われていることはだれもが感じていることだろう。

この状況の難しさは、「権力対芸術家」という構図が当てはまらない点にある。「市民の側に立つべき公立劇場は、市民の過半が排外主義を掲げたときにはどうすべきなのか？」

この問題への具体的な参照項は、1930年代のドイツ公立劇場にしかない。TPAMでの『メフィストと呼ばれた男』は、当時の演劇人たちをひとつの鏡として、いま劇場で仕事をする我々がひたすらみずからについて考えるための上演となった。

たやすく解答の得られる問いではない。だが、なにより重要なことは、この問題そのものを顕在化させて、それを考え続けることだろう。そして我々がこの問題を考えているということ自体を観客に伝えてゆくことが、希望への道ではないだろうか。

宮城 聡(演出家・SPAC-静岡県舞台芸術センター芸術総監督)



Photo: Hideto Maezawa

2月14日[日]  
KAAT 神奈川芸術劇場 ホール

製作: SPAC-静岡県舞台芸術センター

### キム・ミンギ×キム・ミンジョン×ムーブメント・ダンダン(ソウル) 『2016 工場ともしび—劇場デモ』

コ・ジュヨンディレクション参照 P.10

## TPAM ディレクション

複数のディレクターが独自の視点で作品を紹介する本プログラムに今回は5名と過去最多のディレクターを迎え、うち4名は今年度が初回となった。

海外からは昨年に引き続きの2回目となるタン・フクエン氏と、韓国からコ・ジュヨン氏が加わった。前者は氏の故国のシンガポールにフォーカスし、後者は韓国の同時代社会を厳しく問う2作品を紹介、別の視点ながらも双方ともに批評性の高いプログラムとなった。日本ではまだまだ未開拓な分野であるダンス・ドラマトゥルクを専

門とする中島那奈子氏は、ダンスをアーカイブするという難しい試みの可能性を広げた。

横浜で堅実な活動を続け多くのアーティストを支援してきた急な坂スタジオのディレクターの加藤弓奈氏は、これまで支援してきたアーティストの異なる側面を紹介するプログラムを組んだ。また、今回から音楽プログラムをスタートし、最初のディレクターには音楽家でもある恩田晃氏を迎えた。ライブのほかアジアでのリサーチの報告会も実施、音楽プログラムのキック・オフとなった。

Photo: Masanobu Nishino



### タン・フクエン ディレクション

タン・フクエン ディレクションの公演の全てはナショナル・アーツカウンシル シンガポールからの助成を受けています。

**ホー・ルイ・アン(シンガポール)『Solar: A Meltdown』**

2月7日[日]

KAAT 神奈川芸術劇場 中スタジオ

**ダニエル・コック/ディスコダニー(シンガポール) & ルーク・ジョージ(メルボルン)『Bunny』**

2月10日[水]、2月11日[木]

BankART Studio NYK 3F 3C gallery

**タラ・トランジトリー aka**

**ワン・マン・ネイション(インターナショナル)**

『//gender|noise\\』

2月12日[金]

AMAZON CLUB

**チョイ・カファイ(シンガポール)**

『SoftMachine: Expedition』

2月6日[土]～14日[日]

BankART Studio NYK 3F 3A gallery

**ジ・オブザバトリー(シンガポール)『Continuum』**

恩田晃ディレクション参照 ※P.11

2回目となるタン・フクエン ディレクションは、彼の出身地であり、活動拠点の1つであるシンガポールにフォーカスした内容となった。独立50周年をむかえたシンガポールが成し遂げた多くの「達成」とその代償や課題を体現する、シンガポール出身で国際的に活動するインディペンデントなアーティストたちをディレクションしている。

デジタル・ネイティブ世代であるホー・ルイ・アンはポスト植民地主義の歴史・表象・状況に対して無名の存在として向き合い語ってみせ、タラ・トランジトリーは世界各地での「トランス」をめぐるリサーチで獲得した「ゆらぎ」を具現化するノイズ・パフォーマンスで会場を熱気に包んだ。ジ・オブザバトリーが今回披露した楽曲は、ガムランという隣国インドネシアの伝統楽器に独自の視点を加え、ガムランを脱構築したとも言えるべきユニークなものであった。ダニエル・コックとチョイ・カファイは日本でも既に知られているアーティストだが、彼ら自らが選んで広い世界へ飛び込む挑戦的な姿勢で作られた作品は、シンガポール・フォーカスという枠組みの中でよりいっそう際立ち、参加者にとっても彼らの魅力を再確認できる場となった。



Photo: Hideto Maezawa



Photo: Hideto Maezawa



Photo: Hideto Maezawa



Photo: Hideto Maezawa



### コ・ジュヨン ディレクション

**ユン・ハンソル×グリーンビグ(ソウル)**

『語りの方式、歌いの方式—デモバージョン』

2月10日[水]～2月14日[日]

KAAT 神奈川芸術劇場 中スタジオ

**キム・ミンギ×キム・ミンジョン×**

**ムーブメント・ダンダン(ソウル)**

『2016工場のともしび—劇場デモ』

2月13日[土]、2月14日[日]

KAAT 神奈川芸術劇場 大スタジオ

主催：文化庁、PARC-国際舞台芸術交流センター、  
国際舞台芸術ミーティング in 横浜 2016 実行委員会



Photo: Kazuomi Furuya



Photo: Hideto Maezawa

初めてのTPAMディレクションをやらせていただくことになり、どんな基準でどんな作品を出したら、このTPAMという場の一部分を占めるに価するかを結構悩みました。

まずは、インディペンデント・プロデューサーとして決して長く豊かなキャリアを持ち合わせているとは言えないが、今までやってきた仕事の一番根底にある「今の時代へ問いかける舞台芸術」を最も重要な基準とし、それから「マーケット」ではなく「ミーティング」であるからこそ、海外に向けて受けそうな、売れそうな、評判を得そうな作品より、観劇の後、AMAZON CLUB等で交わす会話のきっかけになりそうな、それを通じ個々の考えや世界観を覗き見、さらにはお互いの国のことや共通する問題意識が共有できるような作品を選ぶことにしました。

個人としては今年のTPAMディレクションは良い意図を持っていても、それをどう巧みに反映させる作品であるかも重要なポイントであり、プロデューサーという立場からの作品への関わり方をもう1回考え直す、反省する機会になりました。しかし、韓国からの2本の作品をみて、色んな国からの仲間たちと会話が弾んだことはとても嬉しく思っています。とくに、アジアの人たちからの言葉や反応から2本の作品が喚起させる伝統、抑圧、言葉、労働、資本などのキーワードが共有できるアジア的なアジェンダであることを確かめたのはとても嬉しい成果でした。

1回限りのお披露目で終わらず、この会話や共有の感覚が続くようにもっと広く、鋭く現実や舞台を眺め、アーティストたちと新たな挑戦を続けたいと思います。

コ・ジュヨン(インディペンデント・舞台芸術プロデューサー)



## 加藤弓奈 ディレクション

### ドキュメント(東京)

#### 『となり街の知らない踊り子』

2月11日[木]、2月12日[金]

YCC ヨコハマ創造都市センター 3F

### チェルフィッチュ(日本)

#### 『あなたが彼女にあげられるものは何もない』

2月12日[金]、2月13日[土]

Port Terrace Cafe(ポートテラスカフェ)

(JICA 横浜 3F)

「いま、ここで、多くの人にみてもらいたい作品」これがディレクションする上で考えたことです。そして同時に、私が仕事をする上で重要視していることでもあります。山本卓卓はTPAMで何度か紹介されているし、チェルフィッチュの海外公演の実績は言わずもがな…。何故この2つなのか、疑問に思われた方もいるかもしれません。

ドキュメントは初演からわずか9ヵ月での再演となりました。ディレクションのお話をいただいた際に、真っ先に頭に浮かんだ作品です。チェルフィッチュの作品は「とにかく見たい!」と思っていました。それを実現出来ることはディレクターの特権でしょう。JICAのレストランでの上演は、ちょっとした奇跡がたくさん重なりました。「ここで上演することがいいのか?」という問いは常につきまといます。横浜はいつだって、刺激的な答えを与えてくれます。

「いま、横浜で、みられてよかった」そう感じた人がほんの少しでもいることを願って。

加藤弓奈(急な坂スタジオディレクター)



## 恩田晃 ディレクション

### 鈴木昭男(京丹後)、堀尾寛太(東京)、 ピン・イドリス(バンドウン)

#### 『Music Opening Night』

2月8日[月]

BankART Studio NYK 3F 3B &  
3C gallery

### ジ・オブザバトリー(シンガポール)

#### 『Continuum』

2月9日[火]

神奈川県民ホール 小ホール

助成: ナショナル・アーツ・カウンシル シンガポール

TPAMが長期的視野で展開していく音楽プログラムのキック・オフとして、この先なにが起こっていくのか、ダイジェストというべき内容であった。インドネシアのオルタナティブ・シーンを代表する「ピン・イドリス」、欧美的なポストロックをベースにガムランという汎アジア的な要素を取り込んだシンガポールの「ジ・オブザバトリー」、マルチメディアの中堅アーティスト「堀尾寛太」、空間と音響の関連性をパフォーマンスとして提示したサウンドアートの巨匠「鈴木昭男」、4者とも異なるアプローチを繰り広げた。BankARTの『Music Opening Night』は満員御礼、2日目の神奈川県民ホールも大入り。訪れたキュレーターや関係者の反応もすこぶる良く、順調な滑り出しであった。来年からは、アジアに内包された多様な音楽の星雲から強く輝いているものを選び出し、綿密なりサーチを加え、ひとつひとつに深く踏み込んだプログラムを提示していきたい。

恩田晃(サウンドアーティスト/キュレーター)





## 中島那奈子 ディレクション

### ダンスアーカイブボックス@TPAM2016

共催：横浜ダンスコレクション2016  
協力：公益財団法人セゾン文化財団、シンガポール国際芸術祭 (SIFA)、  
早稲田大学坪内博士記念演劇博物館

### 『ユーザーとアーキビストのパフォーマンス + ダイアログ』

2月10日[水]

ユーザー：ナフテージ・ジョハール ×

アーキビスト：鈴木ユキオ

ユーザー：チェイ・チャンケトヤ ×

アーキビスト：白井剛

2月13日[土]

ユーザー：ヴェヌーリ・ペレラ ×

アーキビスト：手塚夏子

ユーザー：花柳大日翠 ×

アーキビスト：伊藤千枝

横浜赤レンガ倉庫1号館 2階 スペース

### 『ダンスアーカイブボックスプロジェクトの展示』

1月30日[土]～2月14日[日]

横浜赤レンガ倉庫1号館 2階 スペース

### 『ダンスのアーカイブと老いを巡るシンポジウム』

詳細はミーティングプログラム 参照 ❖❖❖P.19

ダンスアーカイブボックス@TPAM2016では、過去のダンスの遺産をどう考えるかというアーカイブの問いを、「老いと踊り」という日本のテーマと絡めて提示しました。国や文化を跨いで実施されてきたプロジェクトの展開を、展示、パフォーマンス、シンポジウムの3部構成で示し、過去、現在、未来の視点から考察しました。パフォーマンスでは再演と初演を組み合わせ、アジアと日本の伝統舞踊から年齢やキャリアの異なるユーザーを招きました。TPAMディレクターとしてアーカイブボックスプロジェクトを構成し直す中で、私はプロジェクトを再定義するという課題に直面しました。そして、その作業を通して私は、過去のダンスプロジェクトを「アーカイブする」ことは、ダンスプロジェクトを未来に向けて「使う」ことなのだとして理解しました。プロジェクトの組み替えがアートの新たな地図を描くものになるとしても、それが元の文脈から作品を切り離す乱暴さを伴うならば、ここでの私の試みも、アーキビストやユーザーのパフォーマンス同様、批判を免れないでしょう。現在という歴史的な瞬間にこの問題を素通りすることは、許されないことだからです。

中島那奈子(ダンス・ドラマトゥルク、ダンス研究)



Photo: Hideo Maezawa



Photo: Hideo Maezawa



Photo: Kazumi Furuya



Photo: Kazumi Furuya



Photo: Kazumi Furuya



Photo: Kazumi Furuya

## TPAMエクステンジ

今回、TPAM エクステンジのコーディネーターとして三好佐智子氏を迎え、2月9日、10日の2日間のプログラムとして、グループ・ミーティングとスピード・ネットワーキングを実施した。継続して参加している団体に加えて、国内外で活躍する演出家や劇作家、振付家が参加してのアーティストによるミーティングが増加した。

TPAM エクステンジは、会場に来れば多数の TPAM の参加者に

出会うことができるため、参加者同士が情報交換や交流する場として会場全体が機能しており、またワークショップ形式でミーティングを行うなど参加団体ごとの工夫もみられ、ブース形式を廃してから3回目となる今回、「ミーティング」の場のひとつとして、定着したといえる。

2月9日[火]、2月10日[水]

BankART Studio NYK 2F

### スピード・ネットワーキング ホスト一覧 (名字アルファベット順)

\*肩書等はTPAM2016開催時点

名前	所属・肩書き	都市 / 地域
ベアータ・バルダ	Trafo 芸術監督	ブダペスト
ロベルト・カサロト	ローマバレット団 ディレクター／ヴェネト夏季オペラフェスティバル国際ダンスプロジェクト ディレクター	ローマ
アイマル・クロスニエ	フランス国立ダンスセンター 総合ディレクター代理	パリ
マリア・ダルマニンシー	ジャカルタ芸術大学舞台芸術学部副学部長、Indonesia Dance Festival ディレクター	ジャカルタ
アメリア・エアハルト	Dancemakers Centre for Creation キュレーター	トロント
エンチェン・ガン	クアラルンプールパフォーミングアーツセンター (KL PAC) プロダクションマネージャー	クアラルンプール
フー・ニン	上海国際芸術祭フレンズクラブ ディレクター	上海
藤井明子	愛知県芸術劇場 シニアプロデューサー、あいちトリエンナーレ 2016 キュレーター	愛知
藤田直義	高知県立美術館 館長	高知
エレノ・グスマン	サンルイスボトシ文化センター舞台 芸術副館長	サンルイスボトシ
蔭山陽太	ロームシアター京都 支配人／エクゼクティブディレクター	京都
岸本匡史	あうるすぽっと 制作	東京
小島寛大	フェスティバル / トーキョー 副ディレクター	東京
黒田裕子	金沢 21 世紀美術館 交流課プログラム・コーディネーター	石川
松浦茂之	三重県文化会館 事業課長	三重
ヘレン・メドランド	SICK! Festival 芸術監督	ブライトン
宮久保真紀	Dance New Air プロデューサー	東京
森 忠治	せんだい演劇工房 10-BOX プログラムオフィサー	宮城
小原光洋	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 横浜市民ギャラリーあざみ野	神奈川
齋藤 啓	鳥の劇場 制作担当	鳥取
崎山敦彦	KAAT 神奈川芸術劇場 チーフプロデューサー	神奈川
下山 久	りっかりっか*フェスタ (国際児童・青少年演劇フェスティバルおきなわ) 総合プロデューサー・芸術監督、 エーシーオー沖縄 (芸術文化協同機構) 代表	沖縄
アンドラーシュ・ジーボルト	Kampanagel 国際サマーフェスティバル 芸術監督	ハンブルク
ジョエル・スターン	Liquid Architecture 芸術監督	メルボルン
鈴木敦・千装功	横浜赤レンガ倉庫1号館 (公益財団法人横浜市芸術文化振興財団) 職員	神奈川
高萩 宏	東京芸術劇場 副館長	東京
フェイス・タン	エスプラネード プロデューサー (ダンス)	シンガポール
サン・タワンウォンシー	プロデューサー、劇団 Sun Dance Theatre 主宰	バンコク
オイミン・ウォン	マレーシア国立芸術文化遺産大学 (ASWARA) 演劇学部長	クアラルンプール
矢作勝義	穂の国とよはし芸術劇場 芸術文化プロデューサー	愛知
横山義志	SPAC- 静岡県舞台芸術センター 海外招聘プログラム担当	静岡

## グループ・ミーティング テーマ一覧

\*重複するテーマは1つだけ掲載

テーマ	ホスト名
エルヴィス・プレスリー、コロンバイン、石油、PTSDに共通するものは…	John Oglevee (Theatre Nohgaku)
チェルフィッチュ/岡田利規 新作「部屋に流れる時間の旅」紹介	黄木多美子・兵藤茉衣(プリコグ・チェルフィッチュ)
GD+DDT+DG = デンマークのダンス 2017	3 Danish dance companies (GD+DDT+DG)
HAUのダンス・プログラム	リカルド・カルモナ(HAU Hebbel am Ufer)
パウラ・ロソレンの振付作品	パウラ・ロソレン(振付家)
国際交流事業ビジョンについて	松浦茂之(三重県文化会館)
KYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭 2016 SPRING 共同製作作品 足立智美 × contact Gonzo 『てすらんばしり』のご紹介	川崎陽子(KYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭)
Golden Mask Festivalについて	アリオーナ・ヤンケーヴィチ (Golden Mask Festival)
エスプラネード - シアターズ・オン・ザ・ベイ: プレゼンター、プロデューサー、コラボレーター	リドワン・アンワー、エミリー・ホー、フェイス・タン
舞台芸術専用のアーティストインレジデンス KIACの紹介	吉田雄一郎(城崎国際アートセンター)
国際交流基金アジアセンターの理念と活動について	稲見和己、吉岡憲彦(国際交流基金アジアセンター)
芸術公社: 創設ビジョンと未来のプロジェクト (2016 - 2020)	相馬千秋(特定非営利活動法人 芸術公社)
Stopgap Dance Companyのインクルーシブ・ダンスについての紹介	柴田翔平(Stopgap Dance Company)
フェスティバル/トーキョーの紹介	市村作知雄(フェスティバル/トーキョー)
ニブロールおよび矢内原美邦の活動紹介	矢内原美邦(ニブロール、ミクニヤナイハラプロジェクト)
アジア・プロデューサー・プラットフォーム・キャンプ2016 日本開催の紹介	斎藤努(舞台芸術制作者オープンネットワーク(ON-PAM))
中国におけるSNSメディア時代のパフォーマンスアート	ラン・チェン(新京報/劇団 Stage No More)
ミックスメディア アーティスト/作曲家である私の仕事と HANOI NEW MUSIC FESTIVALの紹介	チャン・キム・ゴック(DomDom)
Next 舞台制作塾 全国対応・出張講座のご提案	齊木香苗(Next 舞台制作塾)
戯曲とは何か? 戯曲賞とは何か?? -AAF 戯曲賞リニューアルについて語る	山本麦子(愛知県芸術劇場)
Komunitas Salihara (インディペンデント コンテンポラリー アートスペース/アート教育) とのプログラミングとコラボレーション	エニン・ヌルジャナ(Komunitas Salihara)
韓国のオーガナイザー、エージェント、キュレーター	イ・スンヒョ(フェスティバル・ボム)、キム・スルキ(Forbyart)、 キム・ヒュンジン(インディペンデント・キュレーター)
マッチポイント — 台湾と共に未来を創る	ファン・ウン(フライ グローバル)
音楽劇『赤い竜と土の旅人』の海外展開について	伊藤靖朗(舞台芸術集団 地下空港)
あうるすぽっと タイアップシリーズ 相談会	岸本匡史、中川歩美(あうるすぽっと)
主要都市に限らず創作・共同製作をする志向性について	三好佐智子(有限会社 quinada)
KYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭 2016 AUTUMN 『オープンエントリーパフォーマンス』募集説明会	和田ながら(KYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭)
テルアビブ Tmu-na theater でのキュレーションとクリエーション、 その目的や枠組みに焦点を当てる	ヤイル・ヴァルディ(Tmu-na theater)
「世界を着せ替える」ワークショップ	松井周(サンプル)
ミャンマーにおけるコンテンポラリーシアターおよびパフォーマンスの可能性と挑戦	ニャン・リン・テツ (Theatre of the Disturbed)
海外との協力とカルチャー エクスチェンジ	オレ・カムチャンラ(KHAM dance company - フランス)
演劇と地方活性化の可能性〜劇団熱血天使 2017 奈良公演 協力者 募集	三橋ちひろ(劇団熱血天使)
演劇で共有される個人の体験	岩井秀人(ハイバイ)
舞台芸術は消えゆく伝統を救えるのか?	浜田あゆみ(ふたりっこプロデュース)
バンコクのTLASとLow Fat Art Festivalのご紹介	Wasurat Unaprom (Thong Lor Art Space)
路(大道芸)と劇場を繋げる可能性について	クラウン・リオ(浅草パフォーマンスプレイス実行委員会)
障害とダンスー多様な身体性を活かす取り組み	伊地知裕子(インテグレイテッド・ダンス・カンパニー 響-Kyo)

ライブアートとパフォーマンスの公共性との結びつき	リバー・リン(CO3 - 台湾コンテンポラリー パフォーマンス コネクション)
「芸術文化による社会支援助成」プログラムのご紹介	佐野晶子(アーツカウンシル東京 企画室企画助成課)
横浜ダンスコレクション	中富勝裕(横浜ダンスコレクション/公益財団法人横浜市芸術文化振興財団)
Performing Arts Market in Seoul 2016について	シナ・キム(Korea Arts Management Service)
老いと演劇～認知症の人と“いまこ”を楽しむ～	菅原直樹(「老いと演劇」OiBokkeShi)
MachiNations: 不確実な状況下におけるサステナビリティ	テス・ハマース(KoLab Co. および Ea Torrado (Daloy Dance Company))
舞台芸術制作者オープンネットワーク(ON-PAM) の活動について	奥野将徳(舞台芸術制作者オープンネットワーク(ON-PAM))、宮内 奈緒
カンボジア、文化芸術の継承におけるアーカイブの一步先	荒井和美(ボバナ視聴覚リソースセンター)
Bangkok Theatre Festival (BTF): アーティストのネットワークによるインディペンデントな演劇イベントの可能性	ブラディット・ブラサートーン(芸術監督)
AASAKTA: インドのエクスペリメンタル シアター カンパニーの紹介	モヒット・タカルカー (AASAKTA)
ブルネイの最新のアート事情について	Seruddin Awang Damit (Brunei Arts Enthusiasts Association (PeSTAB))
高校生に捧げるロク「いつ高シリーズ」のご紹介	三浦直之(ロク)
インドのコンテンポラリー ダンス プロダクションの紹介	サントシュ・ナイール(Sadhya-a unit of performing arts)
「福島でゴドーを待ちながら」を上演して5年目の現在について	萩原雄太(かもめマシーン)
カンボジアとのコラボレーション: コンテンポラリーとトラディショナルの間で	プリム・ブルーン(Cambodian Living Arts)
セゾン文化財団のレジデンスプログラム ヴিজィティング・フェロー	稲村太郎(セゾン文化財団)
ブラック労働が常態化している舞台芸術制作者の働き方を自ら変えていきたいと 思っているThink BIG!な制作者の集い	植松侑子、藤原顕太、斉木香苗(NPO法人Explat)
「アーツコミッション・ヨコハマ」プログラムのご紹介	杉崎栄介、長濱佐和子(公益財団法人横浜市芸術文化振興財団)
Bangkok Art and Culture Centreのご紹介	Luckana Kunavichayanont(Bangkok Art and Culture Centre)
新しい出会いを求めて～ FUKAIPRODUCE 羽衣の活動紹介	坂田厚子(FUKAIPRODUCE 羽衣)
韓国の新人アーティストたち	EG、Zeewooman、イ・キュンスン、パク・ミンヒ(インディペンデント・アーティスト)
「鳥の演劇祭」のコミュニティ・プログラムについて	齋藤啓(鳥の劇場)
こどものために芸術ワークショップは何ができるか?	厚地美香子(NPO 法人あっちこっち)
シンガポール演劇のドキュメンテーション	ダニエル・テオ(Centre 42)
私の闘争 — イソノミアへの可能な道程	greenmay(緑美)、Kwong Wailap
『演劇クエスト』とは何か?	藤原ちから(BricolaQ)
伊藤キムの活動、GERO & おやじカフェ	伊藤キム(フィジカルシアターカンパニー GERO)
みんなで一緒に舞台を楽しもう～観劇サポートを考える～	廣川麻子(NPO 法人シアター・アクセシビリティ・ネットワーク(TA-net))
セゾン文化財団のアーティスト支援のコンセプトとは	岡本純子(公益財団法人セゾン文化財団)
みんなで一緒に舞台を楽しもう～観劇サポート方法と機材の紹介～	廣川麻子(NPO 法人シアター・アクセシビリティ・ネットワーク(TA-net))
新しいアーティスト イン レジデンスの形: Creative Exchange Lab	アンジェラ・マトックス(芸術監督、PICA - Portland Institute for Contemporary Art)



スピード・ネットワーキング



グループ・ミーティング

## ミーティング・プログラム

今年度のミーティング・プログラムでは基調鼎談、連続セッション、上演作品に関連したトークやシンポジウム、アーティストによるプレゼンテーションなど計14のプログラムを実施した。全てのプログラムは通訳ありで行われ、国内外から訪れたプロフェッショナルたちが活発な議論を行った。そのうち《アジアにおけるコプロダクシ

ョン》をテーマに行った4回の連続セッションでは韓国・日本・タイ・マレーシアにおける事例が紹介され、議論された。ここで提示された様々な論点は今後TPAMがアジアにおけるコプロダクションモデルを新たに模索していくことを目指す上でいずれも重要なものであり、来年以降も議論を深めていく必要があるだろう。

## 特別鼎談「新しい広場」としての劇場

2月9日[火]

BankART Studio NYK 2F

登壇者：

姜尚中(政治学者、熊本県立劇場理事長兼館長)

平田オリザ(劇作家・演出家、TPAMアドバイザー)

岡田利規(演劇作家・小説家、チェルフィッチュ主宰、TPAMアドバイザー)

今回より新たにTPAMアドバイザーに就任した平田オリザ氏と岡田利規氏に加え、2016年1月より熊本県立劇場の館長兼理事長に就任した姜尚中氏を交えた特別鼎談。岡田氏が姜氏と平田氏に質問を投げかける形で進行し、劇場で働きはじめたばかりの姜氏からは公共劇場の雇用環境をはじめとする新鮮な分析が語られ、ドイツでオペラ演出の仕事を終えたばかりの平田氏からは公共劇場における国際化について様々な問題提起がなされた。会場には100名を超える大勢の観客が詰めかけ、日本の劇場が今後どのような場所になるべきかについて多くの手がかりを得ることが出来た。

Photo: Hideto Maezawa



## TPAM ディレクション ディレクターズトーク

2月6日[土]

BankART Studio NYK 2F

スピーカー：

タン・フクエン(ドラマツルク、キュレーター、プロデューサー)

コ・ジュヨン(インディペンデント・舞台芸術プロデューサー)

Photo: Hideto Maezawa



TPAM主催公演の過半を占めるプログラム「TPAM ディレクション」から、各コンセプトについてディレクター自身が語る機会として設定されたミーティング。「シンガポール」において唯一(singular)であるアーティストたちの実践群(例えば帰属をめぐる)をラインナップしたタン・フクエン氏と、思案の末に「韓国」の社会的にも芸術的にもストレートな舞台を選んだコ・ジュヨン氏。インディペンデントに活動する2人は「次のクリエイション」を強く意識しており、TPAMという機会にぜひアーティストに直接問いかけてほしい、と質疑応答を締めくくった。各ディレクターの立ち位置やキャラクターを大いに表出したトークは、会期9日間にわたる公演と議論の導入となった。

## TPAMディレクション 音楽プログラム キックオフ・トーク

2月6日[土]

BankART Studio NYK 2F

スピーカー：

恩田晃(サウンドアーティスト/キュレーター)

新井知行(サウンド・ライブ・トーキョー ディレクター)

TPAMは、言語表現の完全な自由、現代演劇やパフォーマンスの展開を支えるインフラなどがいわゆる西洋近代的な基準で確立されているとは言えない地域における音楽の重要性を鑑み、音楽プログラムをニューヨーク在住の実験音楽家であり優れたプロデューサーでもある恩田晃氏に依頼。今回のキックオフ・プログラムのため恩田氏が行なったハノイとインドネシア3都市のリサーチ、および今後の音楽プログラムのヴィジョンについてカジュアルにお話いただいた。アジアの音楽の多様性紹介、ユニークなアーティスト発掘にとどまらず、音楽性についての新しい評価基準の構築、非アジア地域への発信までを視野に入れたプログラムが今後期待される。



Photo: Hideto Maezawa

### 《連続セッション：アジアにおけるコプロダクション》セッションⅠ

#### 韓国からの視点

～アジア・アーツ・シアターの事例から

2月7日[日]

BankART Studio NYK 2F

スピーカー：

キム・ソンヒ(アジア・アーツ・シアター 芸術監督)

モデレーター：

丸岡ひろみ(TPAMディレクター)

今年度のミーティング・プログラムでは《アジアにおけるコプロダクション》と題した連続セッションを実施した。シリーズ1本目は2015年9月、光州(韓国)にオープンしたアジア・アーツ・シアターの芸術監督(当時)であるキム・ソンヒ氏を招いて行われた。モデレーターを務めたTPAMディレクターの丸岡ひろみからオープニングフェスティバルのキュレーションについて問われると、ヨーロッパのキュレーターによって認められたアジア作品のマーケットとは距離を置き、アジアからアジアを発信しようとしたことが語られた。キム氏の語るビジョンは多くの国からの参加者にとって重要な示唆を与えるものだった。



### 《連続セッション：アジアにおけるコプロダクション》セッションⅡ

#### 日本からの視点

～日本の公立劇場における国際共同製作の可能性について

2月8日[月]

BankART Studio NYK 2F

主催：国際舞台芸術ミーティング in 横浜 2016 実行委員会  
劇場・音楽堂等連絡協議会

スピーカー：

中村よしぎ(東京芸術劇場 音楽企画制作)

岸本匡史(あうるすぽっと 企画制作)

高萩宏(東京芸術劇場 副館長)

モデレーター：

横堀応彦(TPAMミーティング・プログラム コーディネーター)

シリーズ《アジアにおけるコプロダクション》2本目は劇場、音楽堂等連絡協議会との共同主催によって行われ、日本の公共劇場で行われている共同製作の事例が紹介された。国内10都市が共同製作したオペラ『フィガロの結婚』、日独共同製作のダンス『SOMAプロジェクト』、国際共同製作の演劇『三代目、リチャード』という3つの事例紹介を通して、各スピーカーから日本の公共劇場における企画立案から実施までのスケジュールや助成金の枠組みなどが語られた。後半では海外の参加者からも多くの質問が寄せられ、今後の国際共同製作を行っていく上で有益な情報がもたらされた。



Photo: Hideto Maezawa

## 《連続セッション：アジアにおけるコプロダクション》セッションIII プロデューサーからの視点 ～ピチェ・クランチェン『Dancing with Death』をめぐって

2月8日[月]

BankART Studio NYK 2F

Photo: Hideto Maezawa



スピーカー：  
フェイス・タン(エスプラネード プロデューサー)  
スティーヴン・アームストロング  
(アーツセンター・メルボルン クリエイティブ・プロデューサー)  
丸岡ひろみ(TPAMディレクター)  
モデレーター：  
キーホン・ロー(香港・西九文化区 芸術発展部門(演劇) 統括者)

シリーズ《アジアにおけるコプロダクション》3本目はTPAMコプロダクションとして上演されたピチェ・クランチェン『Dancing with Death』のプロデューサー3名が登場し、1つのプロジェクトが企画されてから初演を迎えるまでのプロセスが紹介された。同じくアジアでプロデューサーとして活動するキーホン・ロー氏のモデレートにより、予算面や技術面などの役割分担や新作を製作する際のスケジュールの考え方などについて議論された。既にヨーロッパで確立されているコプロダクションモデルを真似するのではなく、アジアにおけるコプロダクションモデルを新たに模索していくことを目指す上で重要な論点が提示された。

## 《連続セッション：アジアにおけるコプロダクション》セッションIV アーティストからの視点 ～TPAMコプロダクション参加アーティストによるトーク

2月12日[金]

BankART Studio NYK 2F

Photo: Hideto Maezawa



スピーカー：  
ピチェ・クランチェン(振付家、ダンサー)  
マーク・テ(演出家)  
モデレーター：  
キーホン・ロー(香港・西九文化区 芸術発展部門(演劇) 統括者)

コプロダクションは一般的にプロデューサーたちの話し合いにより企画されていくが、アーティストたちはそこにどのような思いをもって臨んでいるのだろうか。本セッションはシリーズ《アジアにおけるコプロダクション》の締めくくりとして、TPAMコプロダクションに参加したピチェ・クランチェン氏とマーク・テ氏が登壇し、アーティストにとってのコプロダクションの利点や課題が語られた。冒頭でキーホン・ロー氏が「プロデューサーからの視点」で提示された論点について確認したあと、クランチェン氏はタイ、テ氏はマレーシアにおけるローカルなコンテキストを紹介しながら、今後のアジアにおけるコプロダクションの可能性について議論が行われた。

Photo: Hideto Maezawa



TPAM エクスチェンジとミーティング・プログラムの会場となった BankART Studio NYK 2Fの様子

## 《アジア舞台芸術アーティスト・イン・レジデンス》

### BankART Studio NYK 2F

主催：PARC - 国際舞台芸術交流センター  
助成：平成27年度文化庁文化芸術の海外発信拠点形成事業



Photo: Hideo Maezawa



Photo: Hideo Maezawa



Photo: Hideo Maezawa



### アーティスト・プレゼンテーション I

スピーカー：タラ・トランジトリー  
2月11日[木]

### アーティスト・プレゼンテーション II

スピーカー：チョン・ウニョン  
2月12日[金]

### アーティスト・プレゼンテーション III

スピーカー：エコ・スプリヤント、ジャラ・アドルフス  
2月12日[金]

### アーティスト・プレゼンテーション IV

スピーカー：エヴァン・ウェッパ―&エイミー・ヘンダーソン  
(パブリックレコーディングス パフォーマンスプロジェクト)  
2月13日[土]

助成：カナダ芸術評議会

《アジア舞台芸術アーティスト・イン・レジデンス》では、アーティスト4名によるプレゼンテーションが実施された。

タラ・トランジトリー氏は、東南アジアのトランス・ウーマンたちと行う1度限りのアート・インターベンションを基にして制作した映像作品を紹介し、このプロジェクトの経緯や今後の方向性について語った。

現代美術家のチョン・ウニョン氏は、日本に約2ヵ月滞りして実施された宝塚歌劇団に関するリサーチ成果を発表し、韓国の女性による伝統芸能ヨソン・グックとの比較や類似点について言及した。今回のリサーチを経て制作される新作が2016年に韓国で発表される予定である。

振付家のエコ・スプリヤント氏は、インドネシア ジャイロロ島に滞在制作中の新作『BALABALA』について、活動の記録映像を交えながら、プロデューサーであるジャラ・アドルフス氏と共に語った。同作品は次回のTPAM2017で発表される予定である。

アーティスト・イン・レジデンスを通して様々なアーティストと『HOW TO WORK』と呼ばれるプロジェクトを実施しているエヴァン・ウェッパ―氏とエイミー・ヘンダーソン氏は、新たにアジアの舞台芸術における「百科事典」づくりを計画中でであると述べた。

## ダンスのアーカイブと老いを巡るシンポジウム

2月14日[日]

### BankART Studio NYK 2F

協力：早稲田大学坪内博士記念演劇博物館、  
東京大学大学院総合文化研究科・表象文化論研究室  
公益財団法人セゾン文化財団、シンガポール国際芸術祭(SIFA)、  
早稲田大学坪内博士記念演劇博物館

スピーカー：

オン・ケンセン(演出家、シンガポール国際芸術祭(SIFA) 芸術監督)  
久野敦子(公益財団法人セゾン文化財団 プログラム・ディレクター)  
伊藤千枝(アーキivist)  
手塚夏子(アーキivist)  
マーギー・メドリン(ユーザー/ドラマトゥルク)  
ヴェヌーリ・ペレラ(ユーザー)  
スザンヌ・フェルマー(ベルリン自由大学准教授)  
ナフテージ・ジョハール(ユーザー)  
中島那奈子(ダンス・ドラマトゥルク、ダンス研究)  
羽鳥嘉郎(TPAM 事務局)



セゾン文化財団とシンガポール国際芸術祭における試みを紹介するために、ダンスのアーカイブと老いを巡るシンポジウムを開催しました。オン・ケンセン氏によるアーカイブボックスのコンセプトの紹介から出発し、ダンスの継承のあり方をアーカイブボックスと老いという2つの視点から問い直しました。そこではまた、ヨーロッパのコンテンポラリーダンスにおける近年のアーカイブの興隆が、画期的なダンスアーカイブ事業の実施をセゾン文化財団に促したという指摘や、参加アーティストによるボックス制作や受け渡しの困難の報告がなされました。このシンポジウムでなされた議論は、「The Archiving Body in Dance: The Trajectory of the Dance Archive Box Project」というタイトルの論文の形で出版される予定です。

中島那奈子(ダンス・ドラマトゥルク、ダンス研究)

## 鴻英良による挑発と洗脳のための猿の演劇論 「内破への視座」

2月13日[土]

BankART Studio NYK 2F

協力：SHIBAURA HOUSE

スピーカー：  
鴻 英良(演劇批評家)



Photo: Hiroki Miyazaki

『猿の演劇論』は、鴻英良さんの講義を起点として、参加者との自由闊達な議論の場を作ることを目的に約1年間に渡り開催してきました。その最終講義としてTPAMで開催された「内破への視座」では、日本の若手作家の作品にも注目しながら、そこに描かれる今日的なテーマを巡り、多様な参加者と議論を共有しました。なかでも、ギリシャ演劇を引用しつつ現代グローバル社会における演劇の社会的役割を具体的に論じた点で、国内だけでなく国外のゲストからも強い共感の声をいただきました。今後は、日英2カ国語でのアーカイブ作成など、引き続き国際的な視野をもって、演劇の現代的な議論を盛り上げていく企画へとつなげていきたいと考えています。

椋山由香(企画・制作)

## 『メフィストと呼ばれた男』アフタートーク

2月14日[日]

KAAT 神奈川芸術劇場 ホール

スピーカー：  
宮城聡(SPAC - 静岡県舞台芸術センター 芸術総監督)  
モデレーター：  
白井晃  
(KAAT 神奈川芸術劇場 アーティスティック・スーパーバイザー)



Photo: Hideo Maezawa

『メフィストと呼ばれた男』の主人公クルト・ケブラーはナチス時代にプロイセン国立劇場の監督を務めた俳優グスタフ・グリントゲンスがモデルとなっている。演出家宮城聡氏は、舞台となっている1932年のドイツと現在の日本が似た社会状況であると感じたため本作品を演出することを決意したという。2016年4月よりKAAT 神奈川芸術劇場の芸術監督に就任する白井晃氏が聞き手を務め、互いに演出家でありながら公共劇場の芸術監督を務めることの難しさや劇場運営の課題、危機の時代に劇場が果たすべきミッションについて率直な議論が行われた。

## オープニング・レセプション

2月7日[日]

YCC ヨコハマ創造都市センター 1F



Photo: Kazuomi Furuya

## レイトナイト・ミーティング・ポイント

2月7日[日] ~ 13日[土]

AMAZON CLUB



Photo: Hideo Maezawa

## クロージング・パーティー

2月14日[日]

BankART Studio NYK 2F



Photo: Hideo Maezawa

今年度のオープニング・レセプションには、神奈川県知事の黒岩祐治氏、横浜市副市長の渡辺巧教氏、国際交流基金理事長の安藤裕康氏にご挨拶いただき、多くのTPAM参加者も集い盛況となった。また今年度で3回目となるレイトナイト・ミーティング・ポイントは年を重ねるごとに盛り上がりをもせ、TPAM参加者にとって欠かせない交流の場として定着している。

## TPAMショーケース

国際的な活動展開を目指す団体や新たな観客層を求めるアーティストが、TPAM期間中に横浜・東京近郊で本公演やワークショップを実施し、TPAMに参加する国内外の舞台芸術に携わるプロフェッショナルに自身の活動を紹介するプログラム。今年のTPAMショーケース参加登録団体数は過去最多の36団体にのぼり、TPAMの主催プログラムでは紹介しきれない国内の多様な舞台芸術シーンと海外の舞台芸術関係者に紹介できる機会となっている。

TPAMショーケース参加登録団体の中には、TPAMエクステンションなどの交流プログラムに参加し、積極的にTPAM参加者との交流を深めている団体もいたが、依然として少数であり、公演の準備等で参加が難しいのが現状である。今後はTPAMショーケース参加登録団体とTPAM参加者との間でより直接的な対話が生まれるよう、他のプログラムとの連携を強化し、彼らがTPAM参加者と長期的な関係を築く機会となるよう改善していきたい。

### TPAMショーケース 参加登録団体一覧

アーティスト/カンパニー名	公演タイトル	会場名	公演日時
岡崎藝術座	新作『イスラ!イスラ!イスラ!』 前作『+51 アピアシオン, サンボルハ』	ST スポット	2月3日[水]ー2月8日[月]
国際交流基金	障害×パフォーマンスアート特集2016	KAAT 神奈川芸術劇場、象の鼻テラス	2月4日[木]ー2月7日[日]、 2月11日[木]
大駱駝艦・天賦典式	クレイジーキャメル	世田谷パブリックシアター	2月4日[木]ー2月7日[日]
富士山アネット	DANCE HOLE	のげシャレ(横浜にぎわい座)	2月4日[木]ー2月9日[火]
オペラシアターこんにやく座	Opera club Macbeth	吉祥寺シアター	2月5日[金]ー2月14日[日]
世田谷パブリックシアター	同じ夢	シアタートラム	2月5日[金]ー2月21日[日]
アジア・ミュージック・ネットワーク	アジア・ミーティング・フェスティバル 2016	SuperDeluxe, Spiral	2月5日[金]、2月7日[日]
shelf	shelf volume 21 "Hedda Gabler"	playroom	2月5日[金]ー2月8日[月]
H-TOA	ワンさんの一生とその一部	gallery to plus	2月6日[土]ー2月14日[日]
Body Lab for Priori Tropism	イソノミアへの可能な道程 無支配的清醒時份	YCC ヨコハマ創造都市センター 3F	2月6日[土]ー2月7日[日]
バチ・ホリック	Taiko Rock "BATI-HOLIC(撥中毒)"	横浜市教育会館	2月6日[土]
鷗座	dance performance HER VOICE 彼女の声	BankART Studio NYK 1F kawamata hall	2月6日[土]ー2月7日[日]
インテグレイテッド・ダンス・カンパニー 響-Kyo	Integrated Dance Company 響-Kyo workshop	横浜ラポール	2月7日[日]
blanClass	Live Art & Archive Anthology #2 on TPAM Showcase 2016	blanClass	2月7日[日] 2月10日[水]ー2月11日[木] 2月13日[土]ー2月14日[日]
関かおり PUNCTUMUN	を こ	森下スタジオ C スタジオ	2月8日[月]ー2月11日[木]
うさぎストライプ	セブンスター	アトリエ春風舎	2月8日[月]ー2月14日[日]
濃中企画	青年団若手自主企画 vol.65 『かげろう 一通訳演劇のための試論-』	似て非 works	2月9日[火]ー2月10日[水]
リクズルーム	三人正常ちょっとだけ	CHAP(長者町アートプラネット) CHAPTER 2	2月10日[水]ー2月11日[木]
ふたりっこプロデューズ	Washi + Performing Arts? Project Vol.1	野毛 Hana * Hana	2月10日[水]ー2月11日[木]
横浜ダンスコレクション2016	アジア・セレクション[シンガポール] 『オーガナイズド・カオス』 T.H.E. ダンスカンパニー	横浜赤レンガ倉庫1号館 3F ホール	2月10日[水]ー2月11日[木]
AMD	トムヤムクンと夜へ	神楽坂 フラスコ	2月10日[水]ー2月14日[日]
三野 新	Prepared for FILM	三ノ輪オークビルディング 3F	2月10日[水]ー2月14日[日]
横浜ダンスコレクション2016	アジア・セレクション[韓国] 日韓ダンス交流プロジェクト Dance Connection 『グロウリング』 タシロリエ / キム・ジウク	象の鼻テラス	2月10日[水]ー2月11日[木]
鷹島姫乃	鷹島姫乃の路上演劇	横浜ユーラシア文化館	2月11日[木]ー2月14日[日]
ダンスアーカイヴ構想	ダンスアーカイヴプロジェクト2016	BankART Studio NYK 3F 3B & 3C gallery	2月11日[木]ー2月14日[日]
小池博史ブリッジプロジェクト	注文の多い料理店	流山生涯学習センター	2月11日[木]
『原色衝動』公演関連企画	白井剛ダンスリサーチワークショップ	世田谷パブリックシアター稽古場	2月12日[金]
村川拓也	終わり	ST スポット	2月12日[金]ー2月14日[日]
岩淵貞太 身体地図	岩淵貞太パフォーマンス公演『斑(ふ)』	のげシャレ(横浜にぎわい座)	2月12日[金]ー2月14日[日]
横浜シアターグループ	By the Hour	ワールドピースシアター	2月12日[金]ー2月14日[日]
笠井叡 / 天使館	冬の旅	東京芸術劇場 シアターイースト	2月12日[金]ー2月14日[日]
時間堂	時間堂レパートリーシアター in 横浜	CHAP(長者町アートプラネット) CHAPTER 2	2月12日[金]ー2月13日[土]
すこやかクラブ	ゆけゆけ!おむちゅび大冒険!!	さくらWORKS(関内)	2月12日[金]ー2月14日[日]
EYECANDY	PEEP SHOW Vol.4 ~MYSTIC JUNGLE~	似て非 works	2月13日[土]ー2月14日[日]
タプロー・ステーションズ/ アイザック・イマニュエル	風景担体	BankART Studio NYK 1F kawamata hall	2月13日[土]
有代麻里絵	オルフェウスの鏡	中野テルブシコール	2月13日[土]
横浜ダンスコレクション2016	スペシャルプログラム 『日本・フィンランド ダブル・ビル』 DAZZLE(日本) / イマ・イドゥオセー(フィンランド)	横浜赤レンガ倉庫1号館 3F ホール	2月14日[日]
Co. 山田うん	Co. 山田うん スタジオパフォーマンス ~ 代表作からの抜粋シーン	YCC ヨコハマ創造都市センター 3F	2月14日[日]

## 提携事業

### アジア舞台芸術アーティスト・イン・レジデンス

2月11日[火]～2月13日[土] BankART Studio NYK 2F  
主催：PARC - 国際舞台芸術交流センター  
助成：平成27年度 文化庁 文化芸術の海外発信拠点形成事業

### 横浜ダンスコレクション 2016

主催：公益財団法人横浜市芸術文化振興財団

#### アジア・セレクション[シンガポール]

T.H.E. ダンスカンパニー「オーガナイズド・カオス」

2月10日[水]、2月11日[木]

横浜赤レンガ倉庫1号館 3F ホール

#### アジア・セレクション[韓国]

日韓ダンス交流プロジェクト Dance Connection

『グロウリング』タシロリエ/キム・ジウク

2月10日[水]、2月11日[木] 象の鼻テラス

#### スペシャルプログラム

「日本・フィンランド ダブル・ビル」

DAZZLE(日本)「カメラ」

イマ・イドゥオセー(フィンランド)「ディス・イズ・ザ・タイトル」

2月14日[日] 横浜赤レンガ倉庫1号館 3F ホール

### アジアン・ミーティング・フェスティバル 2016 東京公演

2月5日[金] SuperDeluxe

2月7日[日] Spiral

主催：国際交流基金アジアセンター

### ダンスアーカイヴプロジェクト 2016

主催：ダンスアーカイヴ構想

BankART Studio NYK 3F 3B &3C gallery

大野慶人 レクチャー・パフォーマンス

「それはこのようなことだった」

2月11日[木]～2月13日[土]

向雲太郎「舞踏?プレゼンテーション・ショウ」

/ A La Maison De M. MUROVECI

2月13日[土]、2月14日[日]

木村彩子

「ダンスハ體育ナリ」体育教員としての大野一雄を通して

2月11日[木]、2月14日[日]

### 国際交流基金 障害×パフォーミングアーツ特集 2016

主催：国際交流基金

シンポジウム：テクノロジーや障害がひらく

新しいパフォーミングアーツの可能性

2月11日[木] BankART Studio NYK 2F

YCAM InterLab + 安藤洋子

『Dividual Plays ディヴィジュアル・プレイズ』

— 身体の無意識とシステムとの対話—

2月4日[木]、2月5日[金]

KAAT 神奈川芸術劇場 大スタジオ

康本雅子/スズキユウリ

『視覚障害 X ダンス X テクノロジー』

“dialogue without vision”

2月7日[日]、2月11日[木]

KAAT 神奈川芸術劇場 1F アトリウム

SLOW LABEL

『SLOW MOVEMENT - The Eternal Symphony 1st mov.』

- in Yokohama

2月6日[土]、2月7日[日] 象の鼻テラス

## 参加方法／チケット

### プロフェッショナル

#### 舞台作品と観客をつなぐ仕事に携わる方

アーティスト、制作者、文化行政機関、支援団体、研究者、批評家、キュレーター、ディレクター、プロデューサー、プログラマー、ファシリテーター など

参加登録料 ¥3,500(税込)

\*会期前はTPAMウェブサイト、会期中はTPAMインフォメーションデスクにて受付

#### 登録料に含まれるサービス

- ▶ ミーティング・プログラムへの参加
- ▶ TPAM エクステンジ会場への入場
- ▶ コンタクトリストの閲覧
- ▶ エコバッグ、プログラム
- ▶ 以下のオプションへの申込

#### オプション 1: 公演の予算

#### プロフェッショナル・レートでの公演チケット購入

**C** TPAMコプロダクション

**CC** TPAMコンテンポラリー・クラシックス

**D** TPAMディレクション

料金:

- 1演目 ¥500～¥1,500(税込)
- ¥4,000 定額(合計¥4,000(税込)以上購入すると、それ以降追加料金が発生しない料金システム、¥4,000以上オンラインで予約した方のみ対象)

**S** TPAMショーケース

料金：団体によって異なる(割引など参加登録者対象の特典有)

#### オプション 2: TPAM エクステンジ登録

#### グループ・ミーティングの登録、スピード・ネットワーキング(1対1ミーティング)の予約

●グループ・ミーティング ホスト登録

料金：テーブル ¥ 6,000(税込)

ルーム ¥17,000(税込)/ルーム

●スピード・ネットワーキング 予約

料金：参加登録料に含まれる

### オーディエンス

#### ダンス・演劇・音楽などの舞台芸術作品を鑑賞するお客様

同時代の作品を観る/楽しむ/考える/語ることで舞台芸術を活性化しアーティストを刺激するみなさま

**C** TPAMコプロダクション

**CC** TPAMコンテンポラリー・クラシックス

**D** TPAMディレクション

一般料金：¥1,000～¥3,000(税込) 1月16日[土] 発売開始

▶ 取り扱いプレイガイド：チケットかながわ、Peatix

**S** TPAMショーケース

料金：団体によって異なる

各公演のチケット取り扱い先で購入。

#### ミーティング・プログラム

各セッション ¥500(税込、予約不要、当日のみ)

※ TPAM エクステンジは入場不可。



Photo: Hideto Maezawa

## 主な掲載媒体

新聞	掲載媒体名	掲載日/号	内容など
	日経新聞	2016年1月21日	「文化往来」TPAM紹介
	The Japan Times	2016年1月27日	TPAM紹介
	東洋経済日報	2016年2月5日	コ・ジュヨン ディレクション紹介
	Phillipine Stars 紙	2016年2月14日	TPAMレポート
	神奈川新聞	2016年2月21日	「木もれ日」欄 岡田利規寄稿
雑誌	掲載媒体名	掲載日/号	内容など
	シアターガイド	2015年12月2日	情報掲載
	ダンスマガジン	2月号	情報掲載
	モーストリークラシック	2015年12月19日	情報掲載
	美術の窓	2月号	情報掲載
	展示会ガイド	1月	情報掲載
	METRO POLIS	1月号	情報掲載
	DANCEART Archive	vol.42 1月号	情報掲載
	VOGUE	3月号	「Dancing with Death」情報掲載
	Danza (ぶらあぼ)	2月号	「Dancing with Death」紹介記事(乗越たかお 著)
	SALUS	2月号	情報掲載
	WIRE	384 2月号	情報掲載
	ELLE JAPON	3月号	「Dancing with Death」[Bunny] 情報掲載
	art+	3月号	TPAMレポート(リバー・リン 著)
	テアトロ	4月号	「あなたが彼女にしてあげられることは何もない」レビュー
	月刊 韓国演劇	4月号	日韓交流ページ TPAMについて(コ・ジュヨン 著)
	中央評論	4月号	「メフィストと呼ばれた男」レビュー(森岡美穂 著)
	演劇評論	夏号(5月発行)	「2016工場のともしび」レビュー(内野儀 著)
	日本照明家協会誌	5月号	「Dancing with Death」レビュー(眞成人 著)
	PASODEGATO	5月号	TPAMレポート、ホールイ・アン、ピチュ・クランチェン、マーク・テ、[Bunny] レビュー
ラジオ	番組名	放送日	内容など
	FMおだわら	1月24日、31日、2月7日	KAATで行う演目紹介
	NHK-FM「横浜サウンド☆クルーズ」	2016年2月1日	「KAATのバックステージツアー」
	FM Yokohama「THE BREEZE」	2016年2月12日	「白井書店」
	NHK ワールド	2016年3月13日	ピチュ・クランチェン インタビュー、公演音源放送
WEB	掲載媒体名	掲載日/号	内容など
	Next 舞台制作 PLUS	2015年11月26日	記者発表会レポート
	ARBAN	2015年12月1日	情報掲載
	EVENT MARKETING	2015年12月7日	情報掲載
	DANCE CUBE	2015年12月18日	情報掲載
	CINRA.NET	2015年12月24日	情報掲載
	Vogue Japan	2016年1月11日	住吉智恵連載、「Dancing with Death」紹介記事
	Nation(タイの英字新聞)	2016年1月11日	「Dancing with Death」情報掲載
	Time Out Tokyo	2016年1月12日	「Dancing with Death」、「Continuum」情報掲載
	創造都市横浜	2016年1月15日	TPAM紹介記事
	観客発信メディアWL	2016年1月23日	脳内プロデュース
	Let' Enjoy Tokyo	2016年1月29日	情報掲載
	ART iT	2016年1月31日	TPAM2016開催概要
	ヨコハマ経済新聞	2016年2月3日	情報掲載
	マグカル	2016年2月3日	情報掲載
	CINRA.NET	2016年2月5日	丸岡ひろみ(TPAMディレクター) インタビュー
	東洋経済日報	2016年2月5日	コ・ジュヨン ディレクション紹介記事
	創造都市横浜	2016年2月5日	恩田晃インタビュー
	マグカル	2016年2月6日	ピチュ・クランチェン インタビュー
	ステージナタリー	2016年2月6日	情報掲載
	神奈川県HP	2016年2月7日	黒岩知事日記、レセプションレポート
	BankART1929 blog	2016年2月14日	TPAMレポート
	Real Time Arts	2016年2月15日	「Dancing with Death」レビュー
	Tokyo Stages	2016年2月23日	TPAMレポート、「メフィストと呼ばれた男」、「2016工場のともしび」レビュー
	Dance webzine	2016年3月1日	コ・ジュヨン ディレクション レビュー
	HereNow	2016年3月8日	TPAM 5作品レビュー(島貫泰介 著)
	PhilippineStar	2016年3月14日	TPAMレポート
	演劇最強論 ing	2016年3月23日	「Solar: A meltdown」、「Bunny」、「Baling」、「となり町の知らない踊り子」レビュー
	THE aPRO	2016年3月15日	コ・ジュヨン ディレクション レビュー
	THEATRE ARTS	2016年3月27日	「Baling」レビュー(藤井慎太郎 著)
	Real Tokyo	2016年3月28日	「Solar: A Meltdown」(竹重伸一 著)
	CINRA.NET	2016年3月30日	タン・フクエン インタビュー
	logmi(ログミー)	2016年3月30日	TPAMエクステンジ グループ・ミーティング レポート
	マグカル	2016年4月6日	TPAM シンガポール・フォーカス レビュー(ダニエル・タオ著)
	シアターアーツ	2016年7月14日	TPAM シンガポール・フォーカス レビュー掲載(坂口勝彦 著)
その他	掲載媒体名	掲載日/号	内容など
	viewpoint	73号	ダンスアーカイブボックス情報掲載
	Kanagawa Arts Press	2016年1月15日	情報掲載
	BankART NEWS	1月号	BankART 演目 紹介
	バンコク日本文化センター Newsletter "NaNa Nippon"	3月号	TPAM特集

